



# ぼうさいあいち

会報 12号

発行日 平成 27年 8月 15日

日本防災士会 愛知県支部

## \*\*愛知県支部創立 10周年を迎えて\*\*

日本防災士会 常任理事  
愛知県支部 代表 保坂 松男

支部創立 10周年記念式典に引き続き平成 27年度支部総会が来賓各位並び会員の皆様のお力添えにより無事終了出来ましたことに感謝申し上げます。

特に支部創立 10周年を迎えることが出来ましたことは、大変感慨深いものがあります。

創立に際しては先人の温かいご理解と、ご指導により支部の活動の拠点を東特会館に設置して頂きましたことが、その後の活動の原点となりましたことに深く敬意を申し上げます。

この 10年の足跡の中には多くの方々の並々ならぬ、お力添えがあったことを忘れてはいけません。

今は亡き安江さま、岩崎さまのご尽力に対し、ここに支部会員を代表し心より感謝の真を捧げます。

防災の啓発に携わるものとして自然の災害を防ぐことは出来ませんが、日頃の地道な努力により減災に努めていかなければなりません。

これからは積み重ねてきた 10年を回顧し、この歴史の足跡を大切に引き継ぎ 11年目に向け、地域に期待される防災士として力を合わせて活動して参ります。

各委員会を中心に会員相互の顔の見える組織として「防災の啓発は永遠である」を忘れることなく、繰り返し繰り返し更なるスキルアップに努めてまいります。

平成 27年度が「防災」のフラッグのもと益々の飛躍する年でありますよう心より期待をしております。



愛知県支部 10周年記念式典には下記のご来賓のご臨席を賜り盛大に取りおこなわれました。

参議院議員柘植芳文さまは「災害対策特別委員会」に所属しておられ、自身も愛知県支部の会員であり、皆さまと共に今後も防災に尽しますと祝辞で挨拶されました。浦野修 日本防災士会理事長は元郵便局長であり（日本防災士 1号）皆さまとともに今後もスキルアップに努めますと挨拶され、加藤慎也 県防災局長さまは地域の防災、減災に今後ともお力添えをと話されました。

引き続き 10周年のあゆみをふり振り返り感謝状の贈呈を行いました。

### 【ご来賓名簿】

### 【感謝状贈呈名簿】

肩書・役職等	氏名
参議院議員	柘植 芳文
日本防災士会理事長	浦野 修
愛知県防災局長	加藤 慎也
東海地方郵便局長会事務局長	山本 雅通
前東海地方郵便局長会事務局長	羽根淵 光秋
前東海地方郵便局長会総括次長	高木 正良
東海地方連絡協議会岐阜支部理事	山岡 伸
東海地方連絡協議会三重支部長	白木 修
東海地方連絡協議会静岡支部長	望月 司
東海地方郵便局長会会長	山崎 雅明
名古屋市北部地区郵便局長会会長	寺島 一徳
名古屋市中部地区郵便局長会副会長	野間 能人
名古屋市南部地区郵便局長会会長	高羽 悟

肩書・役職等	氏名
前東海地方郵便局長会事務局長	故 安江 直樹
前東海地方郵便局長会次長	立松 時博
前東海地方郵便局長会次長	土井 睿
前東海地方郵便局長会事務局長	羽根淵 光秋
前東海地方郵便局長会総括次長	高木 正良
東海地方郵便局長会	東海地方郵便局長会

## 視察・研修に参加して

栄村・中越・中越沖地震の被災地を訪ねて学ぶ

元村 公彦

いまだに大雨が降ると少し怖いです。豪雨の時、川から300Mも離れているのに実家が浸水寸前になりました。

マンションに住む友達から「大丈夫か？おまえの家の方に川から大量に流れて行っているぞ！」と連絡があり、あわてて外を見てみると、あたり一面「池」でした。

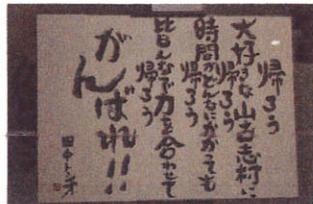
徐々に近づいてくる濁り水を見たその時「自然のチカラにはかてないな」と思ったのを今でも覚えています。私も、こんな些細な経験でも少しトラウマがありますが、実際被害を受けた方のトラウマは何年たっても消せないと思います。地震が来るたびに恐怖がよみがえって来るでしょう。

今回の研修旅行で訪れた、地域の方はとても明るく私たちを迎え入れてくれました。

被害から数年がたっているので、説明等の施設や設備・資料などあり被害状況及びその後についても詳しくお聞きすることができました。

その中で特に印象的だったのが、みなさん「復興の途中です」と言われた事でした。元の街並みを知らない私が、いただいた資料写真から見ると、きれいになっているなど思いましたが、壊れたところが直っても復興ではないのです。被害にあって出てかれた人もたくさんいるし、メンタル面の事もあります。

たとえ以前と全く同じ街並みに戻っても、そこに住む、すべての人の活力が被災以前の状態より良くなれないと復興ではないのです。



今まで、被災地の商品を購入する。寄付をする。など自分なりに手助けができていたと思っておりましたが、防災士として「何が出来るのか？」と考えた時、今回の研修はとても考えさせられました。もし私たちの住んでいる地域・働いている地域が被災したら、南海トラフ地震があったら？今後はそういった研修も参加してみたいと思います。

最後に、研修旅行の日程を見た時、ほとんどがバスで正直「うんざりだなあ」思いましたが、町の中心部から離れ、山に囲まれ、寒く、雪がとても多く、交通の便が良くない、この地域まで、しかも地震があった時とほぼ同時期に現地までの「道のり」を体験できたことは、都市部にすむ私にとって、とてもよい経験になりました。

メディアを通しての情報だけでは、あの地域環境は伝わらないと思います。現地を訪れて話を聞くと、会議室等話を聞く時とは違って、より身近に感じられました。

次回がもしあるならば今回とは違う人に行ってもらいたいです。考え方、感じ方が違うかもしれませんが、メディアを通しての情報では、あの地域環境は伝わらないと思います。そして現地を訪れて話を聞き、体験する事で防災士として成長につながりますので、ぜひ沢山の方に経験して戴きたいです。

## 進まない耐震化に想う

組織委員長 櫻井 衛

阪神淡路大震災から早20年。この地震で6,434人の尊い命が奪われ、そのうち、住宅倒壊による圧死などが全体の8割に上り「住宅が人を殺した」とも言われています。

一向に進まない住宅の「耐震診断、改修」その原因の一端が「東日本大震災の津波被害」にあるのではないのでしょうか。

あの津波が脳裏に残っている限り、自分の家には津波が来ないからからどんな地震が来ても大丈夫、耐震診断、補強なんかどこ吹く風。そんな人たちがたくさんいるのが現状です。

今度来る「南海トラフ巨大地震」では、強いそして長い揺れとの戦いです。「住宅耐震診断」で昭和56年6月以降平成12年の「新耐震基準」適用で完成した在来工法木造住宅でも、63%の住宅が『大地震で倒壊する可能性が高い』と診断されています。87%に達した「旧耐震基準」の住宅倒壊に比べ低いのですが。

私たち防災士は、一人でも建物倒壊、家具の下敷死を防ぐ『耐震補強』『家具固定』など防災啓発活動を強力に押し進める必要を感じています。

# 名古屋港の防災施設等の船上研修会

愛知県支部 研修委員 石垣辰夫

真夏日の汗ばむ陽気となり名古屋市でも、ぐんぐん気温が上がり 31.8度を記録した平成27年  
年5月26日(火)天候(晴天)名古屋港ガーデン埠頭 ポートビル1階ロビーに13時15分集合、会員31名  
が参加しました。

1階ロビーでセレモニー開催(司会 事務局長 加藤義隆)

挨拶 名古屋港管理組合 危機管理室 防災・危機管理課長 畔柳様

挨拶 理事・代表代行 濱田 堯 ・ 研修委員長 森千代子



【船上からポートビル】



【ぼーとおぶなごや2号】



【船内で防災研修会】

13時30分名古屋港管理組合(愛知県・名古屋市設立)の港務艇ぼーとおぶなごや2号に乗船して洋上から  
見学した。船内の各席に座り、畔柳課長から名古屋港の防災について、資料に基づき順次説明を受けました。  
名古屋港は、日本一の港として4市1村のまたがる広域港湾である。(名古屋市・東海市・知多市・弥富市・飛島  
村) 1日当たり90隻の船が入って来る。年間33,226隻

名古屋港の日本一「平成26年度」(日本経済をけん引)

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| 1 総取扱貨物量  | 2億762万トン            |
| 2 輸出額     | 1兆3,746億円           |
| 3 貿易黒字額   | 5兆6,583億円           |
| 4 自動車輸出台数 | 143万3,075台(トヨタ・三菱等) |



【名港トリトン】



【名古屋港船舶通航情報センター】



【高潮防波堤】

港務艇の見学コース

ガーデン埠頭から西側から回る。→フェリー埠頭(名古屋・仙台・苫小牧結ぶ)→名港トリトン→金城埠頭(名  
古屋港船舶通航情報センター)→飛島埠頭(コンテナ物流拠点)→鍋田埠頭(コンテナ物流拠点・主に中国・韓  
国航路)→防災施設(高潮防波堤7.6km)→今日は晴天に恵まれ港外の伊勢湾に出て遊覧した。デッキから中部  
国際空港塔を見ることができた。

帰りは東側を回る。→南浜埠頭(液化天然ガスや原油の受け入れ基地)→北浜埠頭(穀物・パーク・石油化学)  
→東海元浜埠頭(鉄鉱石・製鉄所)→新宝埠頭(自動車積み出し中心拠点・敷地内に4万台収容モータープール・  
自動車専用船は6千台可能で各国に輸出されています)→15時予定通りガーデン埠頭に戻る。

名古屋港の防災の歴史を学ぶ

1944.12 東南海地震(死者1,223名) 岸壁、護岸、防波堤や港内の工場の大半が被災

1945.1 三河地震 1946.12 南海道地震 地盤は変形し港内の施設が殆ど全壊・半壊した。  
 1944～1945 米軍による爆撃も熾烈を極め、戦災と震災で壊滅状態、45年終戦を迎える。  
 1959.9 伊勢湾台風（死者5,098名）日本災害史上最大の台風が名古屋港を襲った。

**高潮防波堤**

海岸に設置した防潮壁や海岸堤防にかかる台風時の高潮・波浪を減少させる重要施設  
 国有港湾施設、3か所 鍋田堤・中央堤・知多堤＝7.6km（高さ6.5m）

防潮壁 高潮や波浪が市街地へ侵入するのを防止施設、  
 名古屋市域海岸部 約26.4km（高さ6～6.5m）

防潮扉 高潮や津波時に閉鎖し、市街地への浸水を防ぐ。

名古屋港管理組合直営 防潮扉12門 扉の軽量化（アルミ化）迅速な閉鎖化が出来る。

民間事業者等に委託 防潮扉25門

研修会終了後、ポートビルから地下鉄名古屋港駅の中間に設置してある防潮扉（アルミ製）を3名が（森千代子・原美佐子・石垣辰夫）見学した。



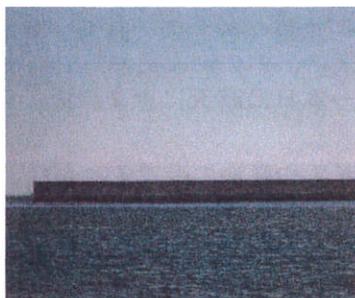
**【2015.5.26. 港務艇 ぽーとおぶなごや2号乗船前於】**

1時間30分による乗船、畔柳課長様の懇切丁寧なガイドにより、名古屋港の防災施設や日本一の総合港湾の概要等を分かりやすく解説を頂きました。また、海上の天候にも恵まれ快適な洋上見学と研修会で、名古屋港の防災知識や各埠頭が様々な貨物を専門的に取り扱っていること等を学ぶことができ有意義な研修会となりました。15時無事下船して現地解散した。

本研修会は、名古屋港管理組合と港務艇ぽーとおぶなごや2号の予約等のお手配を頂きました  
 理事・副代表の櫻井 衛様には大変お世話になり厚くお礼申し上げます



**【自動車専用船】**



**【高潮防波堤】**



**【挨拶 代表代行 濱田 堯氏】**

## 御嶽山噴火講演会

(東特会館 於)

「火山噴火のリスクを知り、学び、そして備えと対処法は・・・・・・？」

(御嶽山噴火 2014年9月27日 11時52分)

2015年6月13日 本部主催の研修会が愛知県支部の東特会館で開催され、支部スタッフがお手伝いをしました。参加者は愛知、岐阜、三重以外に沖縄、広島、富山、京都と多方面から60名の受講者となった。

講師は「NPO 森林自由クラブ代表」瀬古文男氏

瀬古氏は御嶽山9.5合目の避難小屋「覚明堂」の責任者で噴火直後の生々しい様子を語られた。



ご自身は山岳ボランティア活動の体験で山を知りつくしておられ山のスペシャリストである。

「最近の登山ブームで山を甘く見ている！知識も体力も不足！山に登るときは常に死を覚悟せよ！」

当日は噴石が頭に当たり血を流し重体者もいた。小屋の中は真っ暗で細かい灰が充満、役場からの下山指示があつたが翌日まで山小屋を守った。翌日は、まだ噴火の可能性があるとの事でヘリで吊り下げられ下山。目の前の光景はアポロが月面着陸した時のようで昨日までの紅葉の美しい山は見る影もなかったと当時を振り返られた。

広報委員 原田 友子

## 「身につけよう！予防・減災の為の安全・救急法 ①」

(7月19日)

講師 藤田保険衛生大学 医療科学部

リハビリテーション学科 教授 羽田 道信

日本防災士会 防災アドバイザー（専門員）である羽田氏による講習は普段、消防署等で受講する応急手当研修のみでなく精神面や予防と言う点でかなり内容の深い物であった。（参加者20名 東特会館 於）

この研修は今後もシリーズで続くので役立つ知識が満載と期待される。



研修委員 原 美佐子

## 名古屋地方気象台による「防災気象情報編クロスロード」体験会 (8月3日)

講師 名古屋気象台 調査官  
気象予報士・防災士 向井利明  
名古屋気象台 観測予報課  
気象予報士 永井佳実

### <防災カードゲーム『クロスロード』とは>

クロスロードとは『重大な分かれ道』『人生の岐路』のことで防災カードゲーム「クロスロード」は、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材です。

ゲームの参加者は、カードに書いた災害時の対応事例を自らの問題として考えイエスかノーか、自分の考えを示し、そして、参加者同士が意見交換を行いながらゲームを進めていきます。

(チーム、クロスロードの著作物であり、商標登録されています。)

### <クロスロードの目的・効果>

1. 災害対応を自らの問題として考える事ができる。
2. 様々な意見や考え方(価値観)を参加者同士で共有できる。
3. 災害対応においては必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないこともある。ゲームを通じ、それぞれの災害対応の場面でだれもが誠実に考え対応すること。また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要である事に気づくことができる。

### <体験会>

(参加者 30名 東特会館・於)

真夏の太陽が照りつける名古屋、気温 36 度超えの猛暑の中、参加者 30 名は 5 人と 7 人のグループに分かれイエス、ノーのカードを手に真剣に取り組みました。

今までに防災クロスロードを経験された方が何人も見えましたが気象情報編は初めてなので目を輝かせ興味津々、大変盛りあがりました。

支部では、平成 25 年から名古屋地方気象台のご協力による「気象と災害」「防災気象情報の活用」「地震と津波」の研修が役立ち、模範回答が多く出たことでさすがですと関心されました。

終了後の皆さんからは、面白かった、気象情報の奥深くをもつと勉強したい、時間が過ぎるのが早かった。地元で展開させたい、ジュニア版があれば等多くの感想をいただきました。

私の住む豊橋市は 1999 年 9 月 24 日に竜巻に見舞われた事もあり「竜巻のメカニズム」等の気象についての講義は身にしみるものでありました。



研修委員 原 美佐子



## 平成27年度愛知県支部役員

平成27年4月1日

役職	氏名	出身	氏名	出身	その他
理事・代表	保坂 松男	東海市			
理事・代表代行	濱田 堯 ・筆頭（代表補佐） 手塚 哲郎 ・組織・広報委員会 倉知 彰治 ・企画・研修委員会	豊明市  名古屋市  一宮市			
			副委員長	出身	
理事・副代表 企画委員長	西川 賢次	豊川市	河合 美恵子 木藤 俊郎 庄野 俊哉	豊川市 一宮市 名古屋市	
理事・副代表 組織委員長	櫻井 衛	知多市	雪田 克彦 加藤 和久	知多市 春日井市	
理事・副代表 研修委員長	森 千代子	岩倉市	羽田 道信 布目 活男（兼） 原 美佐子 石垣 辰夫	豊明市 名古屋市 豊橋市 一宮市	
理事・副代表 広報委員長	原田 友子	一宮市	阿部 健二 西川 賢次（兼） 山口 敏幸	名古屋市 豊川市 名古屋市	
理事・事務局長	加藤 芳隆	あま市	阿部 健二（兼）	名古屋市	
理事・会計	布目 活男	名古屋市			
会計 監査	伊藤 知恵 佐藤 忠悟	名古屋市 一宮市			
事務局	鈴木 孝則	稲沢市			

### 日本防災士会 愛知県支部

#### 平成27年度 事業計画

- 1、防災の啓発の仲間をつくろう。
  - 東海地方連絡協議会の連携の強化 ●
- 2、ブロックの組織を充実して行こう。
- 3、地域での防災啓発活動への参加
- 4、会員のスキルの向上と交流を進めて行こう。
  - 減災・災害に備え、知識・技術の習得 ●
  - 外部研修への積極的参加によるスキルのアップ ●
  - 東海4県との交流の推進 ●
- 5、広報活動の充実しよう。
  - 各地域での活動情報を収集し会報で紹介する ●

### 平成27年度全国総会の役員改選

#### （任期2年）において

東海地方連絡協議会より次の方が理事（理事定数30名）及び監事（定数3名）に選任されました。

愛知県 支部	常任理事	保坂 松男
愛知県 支部	理事	濱田 堯
静岡県 支部	理事	望月 司
静岡県 支部	理事	井野 盛夫
岐阜県 支部	理事	春田 宣康
愛知県 支部	監事	森 千代子

また新たな組織である全国講師団の一員として静岡県支部副支部長の清水俊雄氏が選出されました。

平成27年度 日本防災士会 愛知県支部の研修案内

(8月30日～12月4日分まで)

1. 第2回目 「身につけよう！ 予防・減災のための安全・救急法」

(第1回目は好評のうちに、7月19日(日)開催済みです。)

- 日時： 8月30日 (日) 午後1時半～4時
- 場所： 東特会館4階会議室
- 講師： 羽田 道信 氏 (研修副委員長・藤田保健衛生大学 教授)
- 参加費： 300円
- 内容： 1. 三角巾法 ・包帯・固定・吊り  
2. 搬送法 ・徒手搬送 (一人で・複数人で)  
・担架搬送 (徒手および応用担架で)

2. 名古屋地方気象台 講座 (全3回)

第1回目 「見学研修会」 ～名古屋地方気象台で防災を学ぼう～

- 日時： 10月1日 (木) 午後1時半～3時
- 集合： 名古屋地方気象台へ直接集合 午後1時20分  
名古屋市千種区日和町2丁目18番地  
☎052-751-5577

日頃大変お世話になっている名古屋地方気象台を訪ねて、気象台の内部をご案内いただきます。その後気象に関する講義も受講させて頂き研修会とします。この機会に是非、気象台を訪ねてみませんか。



第2回目 「防災気象情報」

- 日時： 10月29日 (木) 午後1時半～3時
- 場所： 東特会館4階会議室
- 講師： 榎本 英樹 氏 (気象予報官)
- 参加費： 300円

スキルアップ講習 午後3時10分～4時

「地域防災活動の実践を通して」 代表代行 手塚 哲郎

第3回目 「地震と津波」

- 日時： 12月4日 (金) 午後1時半～3時
- 場所： 東特会館4階会議室
- 講師： 西脇 誠 氏 (地震津波火山防災 情報調整官)
- 参加費： 300円

スキルアップ講習 午後3時10分～4時

「男女共同参加と防災」 会計監査 伊藤 知恵

【参加申し込み方法】

- ① 8月30日 (日) 「身につけよう！ 予防・減災のための安全・救急法」は8月23日 (日) までに
- ② 名古屋地方気象台講座は3回とも9月15日 (日) までに
- ③ 一泊研修旅行 長野県小谷村 (白馬村) は9月5日 (土) までに  
電話・FAX 0587-66-4631 またはPCメール [morichiyo@bc4.so-net.ne.jp](mailto:morichiyo@bc4.so-net.ne.jp)  
研修委員長 森 千代子 宛にご連絡ください。ご参加お待ちしております。

### 3. 一泊研修旅行のご案内

#### 長野県小谷村(白馬村)・辰野町を訪ねて学ぶ

昨年11月22日夜にマグニチュード6.7の神城断層地震に見舞われました小谷村(白馬村)を訪ね、被害の実態やその後の復興の状況を間近に視察します。また辰野町では浦野理事長が絶賛された、防災の取り組みと活動内容について前長野県支部長より直に学びます。

◆旅行日

平成27年9月27日(日)～28日(月) 集合・解散名古屋駅太閤口

◆訪問先

長野県小谷村(白馬村)、長野県辰野町、その他

◆宿泊先

白馬アルプスホテル

長野県北安曇郡小谷村白馬乗鞍高原 ☎ 0261-82-2811

◆参加費

一人 2万7千円くらい(保険込)

◆旅行業者

株式会社 アイ・ツーリスト 担当 川村氏

名鉄大型観光バスを利用いたします

(詳しい日程などにつきましては後日、参加希望者に詳細をお知らせいたします)

一泊研修旅行 長野県小谷村(白馬村)は9月5日(土)までに  
定員になり次第締め切りです。お早めにお申し込みを!

#### ～支部事務局からのお願い～

平成27年度分(平成27年4月～平成28年3月)の年会費につきましては、下記口座へ払込み下さいませようお願い致します。なお、26年度分未納の方につきましては、早期に払込みをお願い致します。

おって3年以上以上払込みがない方につきましては、退会とみなさせていただきますのでご了承ください。

(郵便振替口座) 00830-7-203837

(口座名) 日本防災士会愛知県支部

(年会費) 1,000円

#### ～日本防災士会会員の活動理念～

- 第1 日本防災士会会員(以下「会員」というのは、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与する事を活動の基本理念とする。
- 第2 会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策(復旧・復興活動を含む)等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。そのために次の事項に積極的に取り組むものとする。
  1. 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
  2. 地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
  3. 自治体との緊密な連携を図ること。



日本防災士会 愛知県支部  
広報委員会 作成

〒453-0013

名古屋市守山区亀島1丁目11-14

東特会館内

TEL 052-453-1881

